

足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	高次脳機能障害の患者に生じる家庭内での問題（生活管理の困難さ、異常行動の出現、現実判断の困難さ）の背景を明らかにする研究
当院の研究責任者	船山道隆（神経精神科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	<p>【目的】 高次脳機能障害を持つ患者様のご家族が介護をする中で最も困難な点は、食事コントロールの困難さや身だしなみを整えないことや整理整頓ができないといった生活管理が困難であること、浪費を続けるなどの脱抑制行動や常同行為などの異常行動、作話や人物誤認といった現実の判断が困難さといった家庭内で出現する問題です。本研究の目的は、これらの家庭内での問題の背景を明らかにすることです。</p> <p>【背景】 高次脳機能障害の患者が家庭内での生活で示す最も厄介な症状には、生活上の管理の困難さ、異常行動の出現、現実判断の困難さが挙げられます。これらの症状は主に前頭葉や前頭葉と関連する部位の損傷と関係すると言われていています。しかし、どのような神経学的所見（例えば注意障害や見当識障害など）と関連するかは明らかではありません。われわれはこの点を明らかにして、高次脳機能障害における家庭内での困難さのメカニズムに迫り、介護の軽減につながる方略の構築を目標としています。</p> <p>【対象】 2023年1月から2023年6月に当院神経精神科の高次脳機能外来に通院した脳卒中後の患者様の中で、ご家族が同伴された75名を対象としています。高次脳機能障害は本人の自覚が乏しい場合が多いため、高次脳機能外来にてルーチンでご家族に尋ねているアンケート結果が必要な情報となります。したがって、対象はご家族が同伴された患者様に限定しています。脳卒中後の患者様に限定した理由は、疾患を限定してよりクリアなデータにするためです。</p>

	<p>【方法】過去のカルテから、上記の家庭内での問題、年齢、性別、生活自立度、水頭症の既往、運動機能（上肢および下肢の麻痺）、ルーチンで検査している神経心理所見（知能、記憶、遂行機能、見当識、注意機能、脱抑制、失語症、失行症、半側空間無視や視野欠損）の内容を抽出し、多変量線形回帰にて統計処理を行います。責任病巣については MRICron というソフトにマニュアル手法にて病巣を描いた上で NMP というソフトに各家庭内での問題の程度を組み込み、Brunner-Munzel 検定で統計解析を行い、各家庭内での問題に最も関連する病巣を求めます。</p> <p>【予想される結果】各家庭内での問題は注意障害と状況判断の低下の程度が関連し、病巣は前頭葉内側部が関連することが予想されます。</p>
調査データ該当期間	2023年1月から2023年6月までの診療情報を対象としています。
研究の方法	<p>★対象となる患者様 2023年1月から2023年6月に当院神経精神科の高次脳機能外来に通院した患者様です。</p> <p>★利用する情報 診療録に記載されている過去のカルテから、家庭内での問題、年齢、性別、生活自立度、水頭症の既往、運動機能（上肢および下肢の麻痺）、ルーチンとなっている神経心理所見（知能、記憶、遂行機能、見当識、注意機能、脱抑制、失語症、失行症、半側空間無視や視野欠損）の情報を抽出します。MRIのデータはマニュアル手法にて MRICro というソフトに組み込み、多数例での解析データを出します。</p>
情報の他の研究機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また研究成果は学会発表や論文を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。
本研究の資金、利益相反	ありません
お問い合わせ先	電話 0284-21-0121 担当者：神経精神科 船山道隆